

西表島森林生態系保護地域 エリアごとの概況

番号	エリア	概況	地帯区分	●主な観光資源(○対象地域周辺を含む)	主な利用状況等(●環境省H16、○その他)
①	古見岳一帯	<ul style="list-style-type: none"> 古見岳は島内最高峰であり、その一帯はスダジイ、アカメイヌビワ等からなる原生的な常緑広葉樹林が分布する。 雲霧帯に位置し、着生植物等環境の変化に敏感な植物相がよく発達する。 国内希少野生動植物種であるイリオモテヤマネコ、カンムリワシ、アカヒゲ等のほか、リュウキュウチクを食草とするアサヒナキマダラセセリ等の希少な昆虫類が生息する。 	保存地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ●古見岳 ●古見岳登山道(トレッキングルート) 	●古見岳登山道のトレッキング(年間数十人程度)
②	後良川、相良川、ユチン川及び大見謝川一帯	<ul style="list-style-type: none"> 古見岳等における原生的な天然林を源流とし、溪流帯には狭葉現象の見られるリュウキュウツワブキをはじめ、希少な昆虫類やラン類が生息・生育する。 後良川、相良川、ユチン川にはマングローブ林が発達する。また、後良川のマングローブ林には、国や沖縄県のRDBに記載されている甲殻類や底生動物が多数生息する。 下流域では、広くイリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	保存地区(上流域) 保全利用地区(中下流域)	<ul style="list-style-type: none"> ●古見岳登山道(トレッキングルート) ●大見謝川(マングローブ、大見謝の滝、トレッキングルート) ●ユチン川(マングローブ、ユチンの滝、トレッキングルート) ●後良川(マングローブ、カヌールート) ○大見謝ロードパーク(木道等) ○野生生物保護センター ○熱帯林育種技術園 	<ul style="list-style-type: none"> ●大見謝川河口ロードパーク(年間約1,700人、上流へのトレッキング年間約300人) ●ユチン川下流部カヌー及び中流部(ユチンの滝)へのトレッキング(年間約300人) ●後良川カヌー(年間約900人) ●古見岳登山道のトレッキング(年間数十人程度)
③	テドウ山、波照間森、御座岳及び浦内川上中流域一帯	<ul style="list-style-type: none"> 原生的な天然林であり、スダジイ林が優占し、低地の谷筋にはオキナワウラジロガシ林が生育するなど、亜熱帯降雨林帯の代表的な植生である。 テドウ山から波照間森、御座岳にかけては雲霧帯が、浦内川中流域には溪流帯が発達し、国や沖縄県のRDBに記載されている希少な動植物が生息・生育する。 自然景観にも優れ、カンピレーの滝、マリユウドの滝及びそれらの周辺は自然休養林に設定されている。 浦内川上中流域でイリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	保存地区(浦内川上流域及びテドウ山、波照間森、御座岳周辺) 保全利用地区(浦内川中流域)	<ul style="list-style-type: none"> ●歩道等(歩道、トイレ、展望台) ●横断道等(横断道とテント設営箇所:トレッキングルート、キャンプサイト) ●テドウ山 ●テドウ山登山道(トレッキングルート) ●マリユウドの滝 ●カンピレーの滝 ●マヤグスクの滝(イタチキ川) 	<ul style="list-style-type: none"> ●浦内川中上流トレッキング(年間約5.7万人) ●マヤグスクの滝、横断道のトレッキング(年間180人) ●テドウ山登山道トレッキング(年間数十人)
④	西田川、ヒナイ川及びマーレ川一帯	<ul style="list-style-type: none"> 船浦湾には大小3つの河川が流入し、マングローブ林がよく発達するほか、イタジイ、オキナワウラジロガシをはじめとする亜熱帯性の植物が多い。 船浦湾の湿地や流入河川には、国や沖縄県のRDBに記載されている甲殻類や底生動物が多数生息する。 船浦湾周辺の河川沿いでは、イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 自然景観にも優れ、3河川の下流域を中心として自然休養林を設定している 	保全利用地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ●西田川(マングローブ、サンガラの滝、カヌールート、歩道) ●ヒナイ川(マングローブ、ピナイサーラの滝、カヌールート、歩道) ●マーレ川→ピナイサーラの滝(歩道) ●テドウ山登山道(トレッキングルート) 	<ul style="list-style-type: none"> ●船浦湾のカヌー(年間約8,800人) ●ヒナイ川中下流部のカヌーと中上流部(ピナイサーラの滝)のトレッキング(年間約8,600人) ●西田川中下流部のカヌー、中上流部のトレッキング(年間約1,800人) ●テドウ山登山道トレッキング(年間数十人)
⑤	浦内川中下流域	<ul style="list-style-type: none"> 浦内川は沖縄県最長の河川で、河口から中流部の河岸には広大なマングローブ林が広がり、国や沖縄県のRDBに記載されている甲殻類やハゼ類、底生動物が多数生息する。 亜熱帯性の天然生常緑広葉樹林が繁り、自然休養林が設定されている。 浦内川河口の低地部のほか、祖納岳からウシク森にかけての山地帯でも、イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	保全利用地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ●浦内川(マングローブ、カヌールート、観光船) ●ウタラ川(マングローブ、カヌールート、歩道) ●ウタラ炭坑(木道等) ●オヒルギ巨樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●浦内川中下流部の遊覧船(年間約6.3万人うち復路カヌー約5100人) ●浦内川支流ウタラ炭坑(カヌーは年間約1,600人、トレッキングは約300人) ●横断道トレッキング(年間約180人)
⑥	浦内川河口周辺	<ul style="list-style-type: none"> 干立集落の後側から浦内川河口に発達するマングローブ林と干立御岳のヤエヤマヤシの自生地からなる星立天然保護区域があるなど、集落の近くに貴重な自然環境が残されている。 浦内川河口の低地部のほか、祖納岳からウシク森にかけての山地帯でも、イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	保存地区(河口部のマングローブ) 保全利用地区(保存地区を取り囲む低地部)	<ul style="list-style-type: none"> ●星立天然保護区 ●マングローブ ●ヤエヤマヤシ群落 ○展望台 	

番号	エリア	概況	地帯区分	●主な観光資源(○対象地域周辺を含む)	主な利用状況等(●環境省H16、○その他)
⑦	ヒドリ川及びクイラ川一帯	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドリ川及びクイラ川一帯はイノシシ猟以外での入林者はほとんどなく、自然度が高い状態が保たれている。 ・クイラ川沿いではイリオモテヤマネコの生息が確認されている 	<p>保存地区(クイラ川上流部)</p> <p>保全利用地区(クイラ側及びヒドリ川下流部、船浮湾沿岸部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●クイラ川(マングローブ、カヌールート、トレッキングルート) ○仲良川(マングローブ、ナーラの滝、カヌールート、トレッキングルート、観光船) ●鹿川へのトレッキングルート 	<ul style="list-style-type: none"> ●仲良川のカヌーとトレッキング(年間約1,200人)
⑧	崎山半島	<ul style="list-style-type: none"> ・崎山半島には、船浮集落以外の集落のほか、道路等の人工物もなく、イノシシ猟以外の入林者はほとんどない。さらに、海域はアオウミガメが多く生息し、網取湾と崎山湾には多様な種のサンゴやウミシヨウブ等の群落が分布し、陸域、海域ともに自然度が高い。 ・網取湾に流入するアヤンダ川とウダラ川には、マングローブ林が発達しており、「日本の重要湿地500」にも選定されている。 ・イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	<p>保存地区(半島の中央部から南岸部)</p> <p>保全利用地区(崎山半島中央部より北部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水落滝(マングローブ、カヌールート、観光船) ●鹿川へのトレッキングルート 	<ul style="list-style-type: none"> ●船浮集落周辺のカヌー等(年間約3,000人) ●水落の滝へのカヌー(年間約3,000人)
⑨	南風岸岳一帯、南岸、南風見地区	<ul style="list-style-type: none"> ・南風岸岳一帯はスタジイの優占する原生的な天然林である。また、南岸には風衝地に発達する自然植生が広がっている。さらに、南風見地区にはハスノハギリが優占する海岸林がある。いずれも学術的に貴重な植物群落である。 ・南風見地区では、イリオモテヤマネコ、カンムリワシ等国内希少野生動物種が生息している。 ・南岸は、急な崖が道路等に遮られることなく、直接海につながっており、また、砂浜がアオウミガメの産卵地となっており、海域を含め国立公園第2種特別地域に指定されている。 	<p>保存地区(南風岸岳周辺)</p> <p>保全利用地区(海岸部周辺)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○南風見田の浜 ○南風見田キャンプ場 ●沿岸のトレッキングルート 	
⑩	仲間川一帯	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間川の河口から中流部にかけての河岸には我が国最大規模のマングローブ林が広がり、国や沖縄県のRDBに記載されている甲殻類や底生動物も多数生息する。 ・仲間山一帯は原生的な天然林で、亜熱帯性常緑広葉樹林が分布する。 ・仲間川の上中流部には溪流帯が発達し、希少な植物が生育する。 ・イリオモテヤマネコ、カンムリワシ等国内希少野生動物種が生息する。 	<p>保存地区(仲間川中上流部)</p> <p>保全利用地区(仲間川中下流部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●仲間川(マングローブ、カヌールート、観光船) ●大富遊歩道等(遊歩道、展望台) ●横断道大富口 ●仲間川天然保護区 ●ヤエヤマヤシ群落 ●サキシマスオウノキ群落と巨樹(木道等) ●北船付川の木道(マングローブ、船着場) 	<ul style="list-style-type: none"> ●仲間川中下流部の遊覧船(年間約20.8万人)、カヌー(年間約4,000人) ●仲間川中上流部カヌー(年間約2,300人) ●仲間川上流部のトレッキング(年間約300人) ○北船付川木道の利用(727人(H22年度))
⑪	前良川一帯、大正池、大富地区	<ul style="list-style-type: none"> ・大正池は、ミナミトンボ等希少な動植物の生息地であるとともに、渡り鳥等の貴重な休憩場所となっており、「日本の重要湿地500」にも選定されている。 ・イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	<p>保存地区(上流部一帯)</p> <p>保全利用地区(下流部一帯)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前良川(マングローブ、カヌールート、トレッキングルート) ●古見のサキシマスオウノキ群落(木道等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●前良川下流部カヌーと上流部トレッキング(年間約1,000人)